

四らハ通信



No.51

87.4.6 ¥100

発行 大阪ニジの会
東京アジア反日武装戦線への
死刑・重刑攻撃を許さない！
支援連ニュース読者の会

〒570-0021 堺市東金岡町2-2-1-307

読者3/28 朝

裁判傍聴の抽選
棄権強いられた

会社員・大津 いつお 27

(大阪府)

東京アジア反日武装戦線の裁判を見学するために東京まで行った。当日は強い雨が降っていて、朝早くから三時間ほど待つて抽選券を手にした。しかし抽選をさせてもらえず、結局、傍聴はできなかった。

二百五十人くらいの人が抽選券を持っていたが、九〇%以上の人が勝手に抽選を棄権した。と裁判所職員に決めつけられた。「番号を呼ばれたら抽選に出てきて下さい。もし出てない時は棄権」と次の番号を呼び出すという説明だったが、実際は叫ぶ声があまりにも小さくて、後ろの方に並んでいる人には全く聞こえず、出て行き方がないのである。

並んで順番を待っている、勝手に棄権をされていて「何番呼ぶのか、聞えないうえ、棄権する気なんか

いので抽選させてほしいと書いても駄目だ、駄目だ、無視された。棄権するのなら、どうして三時間も雨を耐えながら待たたりするものか。抽選をしてはくれて傍聴できないのなら仕方ない。だが、抽選を事実上不可能にして、傍聴できないのは納得できない。裁判所は抽選券を持っている人には、抽選の保証をすべきである。このよ



うらうらん ランランラン



わらへはかりの しんじんろい



いぬの おまわりさん



みんな タイホだ ワハハハハ

みんなのうた



まいごの まいごの にほんじん
あなたの しどうはどれでいふ



うぐの はろしは やがましい



ナオキネの リクつは
わつかうない

★「支援連 ニュース紙代」「カンパ」他は、換替で大阪7・510316 (ニジの会) までお願いします。

私たちは偽聴を拒否しました!

※同封の「チェン・レーター」作戦をどうかヨロシク!!

昨年、彼らの殺意の不存在を示す、新証拠がみつかりました。

それは死刑判決に、大きな影響を与えるものです。

■ そこで、被告が新しい弁護士のもとで、弁論を展開しようとしたところ、最高裁はそれを認めず、判決前の弁論を強行しました。

■ 3月11日最高裁は判決日を、突然、3月24日と指定してきました。

▶ しかし、2月3日の法廷では、弁護士は大道寺被告について弁論を一部留保しており（新証拠の調査が、終了していないため）弁論としては未完。「継続審議」となっています。

▶ そのため、3月19日、大道寺被告は、弁論再開の申し立てを最高裁にだしました。

▶ しかし、最高裁はこれを拒否。継続中の弁論を、途中で打ち切ろうというのです。

▶ また、黒川被告の弁護士を変える権利（1月23日、解任）を、最高裁は拒否（弁論当日に「解任無効」を通告）しましたが、

▶ これは憲法37条にも、刑事訴訟法30条にも、反するものです。

〜 即ち、2月3日弁論当日、黒川被告は弁護士さえもつかず、従って、口頭弁論はいっさいなされていません。

▶ そのため、黒川被告は「解任無効は違法である」、及び「弁論を実施すること」という申し入れを行ないました。

——— このような矛盾を放置したまま、最高裁は判決日を、3月24日と「指定」したのです。

▶ しかも、弁論再開と解任無効を申し入れていた弁護士には、事前になんの打診もなく、

また、3月24日は、弁護団の大半の人が、日程上、出廷不可能な日なのです。最高裁は、被告も弁護人もいない法廷で、判決を言い渡そうというのでしょうか？

▶ 以上のような理由で、24日の判決日自体、認めることはできません。

常識的にみても、法律的にみても、矛盾だらけの判決日の指定。それを強行することは、最高裁自らが「公的機関ではない」ことを、広く宣言するようなものです。

アジア各国から侵略の責任を問われ、世界的にも孤立しがちなこの政権。その意向にそうように、判決を下そうというのです。やはり、最高裁は「私物化」されていたのでしょうか？

花の東京着入日記

3月20日の晩から④の車庫所で居候してまゝ。この日は朝から大慌て。Hさんに引越しの手伝いしてもらって、片付いたのが昼過ぎ。他にも細々した事がようけあって、大阪を出た時は6時をまわつた。で、④入りしたのが10時。MさんとRはんとMさんの三人が大忙しの体だった。そして僕は強力な助っ人として迎えられたのだった。のやけど……

実は東京入り前から心に決めていたことがあった。それは、ずえったいに虹の会と一緒に行動せよへんぞ、ということ。なんでも、答へは簡単。例のポニチヨが怖かった。

ところで、Rはんは④の主になつた。するごと一杯、人手なし。もともと助っ人であるRはん、Mさん、Yさんは、中心的存在してた。

はてさて、重ねて言うが、強力な助っ人として迎えられた僕に、リターしてたRさんから虹の会用横断幕作成の指示が下つた。おっとやばや。とさぐさに疲れた振りして無視しようとしたが、ドスのきいた再度の指示。どないしよ。まあええか。いや甘い顔は禁物や。「あのう、そんなん作つたことないし。スツスツ、ウタウタ」と、突然みんはの視線が冷たくなつたへように思えた。どないしよ。せやけど例のポニチヨだけは着たりせえへんぞ。

で、オ一幕オ一条。

M・横断幕は横断幕を作り始める。(いしばりて、Oちゃんも来る。Yさんも帰ってくる)

M「うゝむ、ニにはこうした方が……、字も少し斜め加減にして、

色は……」

御平「注文が難しいなあ、腹も減つてきた」遅々として進まない作業R「まだでけへんのかいな、もっとちやっちゃつとせな。もう遅いし、他にもやること、やうせんあんぬんで」

芸術家のMと、要領を得ない御平に、しゃかりきのRはんは業を煮やす。やっと完成したのは五三時だった。

ま、要するに、④の雰囲気は、完璧にヒカヒカのニミ色に染つていたと言ひたかつた訣。

ちなみに、21日のヒラマきの時、僕はポニチヨを着せられていたのだった。一緒に遊んでもらわれへんのやないかと思えて、でも、一やん着ると癖になる。ぬんぬあ、おもしろいことに。

26日に、Rはん、Mさん、Yさんが帰つて、何や一やんに静かになつたような……けどこの寂しさを染糸に、わしは、わしはバリバリの活動家になるんや。「可能性の局面を収束まで追求し、希望の展望へ止揚させ……」やっぱ無理やね。ウフ。

「ええじやないか、ええじやないか、ええじやないか。死刑なくて、もええじやないか」ほほ、またぬえ。(御平)

今更の声、19日の新宿でのヒラマきに、つかれたてたR・M・Yは次の日から④をやる時から「死刑反対」のプラハポニチヨを着せ着ることにしたのです。いろんな意味で注目されてました。

益永利明さんが、7年面をかけて、御献した

「四人の権利」・ロルドフスキー著 買つて下さい。

一冊千円(送料三三〇円)

申し込みにじの会にまで!!

(---987654321)

と、うたつたのはフランスの抵抗詩人、ポール・エリュアール。彼

らの今回の動きのおかげで、2、3口頭弁論は、その時の虹の雲のやり方は、彼らに苦々しい思いを、させたことを知った。でも、3月24日は、彼らはほぐらの朱手をうち、見えなくされ、圧縮され、へこまされた。シニアとゴールが金切られたとき、誰かが叫んだ「アー」という声。湧き出て、でも隊、みんなも叫んだ。「アーノノ」くやしさも、怒りも、かなしみも、なにもかもこめてさげんだ「アーノノ」。ビルの谷間にこもりましたあの叫びを、心ある人は、どう聞いただろう。あの時たしかに、うすら笑いを浮かべた機動隊員は、がすかに、おびえた顔をした。心を失った奴等には、さぞ不気味だったろう「アーノノ」。

た奴等には、さぞ不気味だったろう「アー、ッ」。

「主を歩くほどの前には、倉敷のAたちが持参した黒旗がひるがえっていた。黒旗には「希望」と書かれていた。とても大切なことなのに、たれやすい言葉。生きる力を与えてくれる言葉。「希望」。そうだ、なにもできなかったけど、叫ぶしかなかった。ぼくだけと、あのとき、たしかに、ぼくは、希望の隊列を歩いてきた。」

あの日、集った数百人。思ひをよせていたところ、数千の人々。まかれた
数万の千うしたち。ちげけな数だけと、この時代の希望だ。

この国とこの時代の絶望をみつめて、一心に希望の虹をかけるための斗ひだ。彼等。東と西、反日主義戦線、殺されようとしている彼等はぼくらの良心だ。とり戻さねばならぬぼくらのたましいだ。そのことを忘れな(限り、)ち(づ)けな(ぼ)くでさ(え)。彼らの希望主(ま)せ。がんばら(う)ねば、がんば(り)たい。生きる「希望」をた(や)さないために、彼(ら)を殺(せ)さないために。み(に)くい、春であ(ろ)うが、春は、春、新(あたら)しい「出(で)発(はつぱつ)」の季節(とき)。黒川(くろがわ)さんな(ら)、新(あたら)しい反日革命(はんにっぽんかくめい)の戦(いくさ)故(ゆ)へ、い(づ)出(で)陣(じん)ノ、と(も)言(い)つた(ら)うか。之(これ)あ、行(い)こ(う)。(NONOMI)

判決をきいてー

獄中の彼らから

① 朝日を一方的に指して、弁護人の大半が出廷できない異常事態をまねいた裁判所の強权的なやり方に強く抗議します。

② 三菱重工の爆弾などで、私たちは大きなおやまりをおかしました。被害者やその家族の方たちには、おわびすることばかりありません。ほんとうに申しわけない気持ちでいっぱいです。

③ しかし、死んでおわびするのが正しい責任のとり方だという考え方には反対せざるをえません。毎日をせいっぱい生き抜く中で自分がおかしたおやまりを反省し、自分と同じようなおやまりがふたたびくりかえされないように努力していくことが本当の責任のとり方なのではないでしょうか。

④ 私たちは、日本国家の政治的指導に他なりません。

日本国家が過去から現在におよぶ侵略を自己批判し、真に民主的で平和な「国」として再生するまで、私はこの国の刑罰権に自発的に服することはできません。

⑤ 支配者たる人民を殺す死刑という制度は、ただちに廃止されるべきです。

私は、これから死刑廃止のために微力をつくして闘う決意です。

(並木利明)

〈判決に対して〉

死刑、重刑判決は、中曾根新國家主義に代表される社会の右旋回への司法の迎合です。

〈裁判所に対して〉

裁判所が行なってきたのは事実の究明ではなく、ただただ拙速的に死刑、重刑判決を下すことであり、死刑廃止運動に敵対することでした。

〈今の気持ち〉

三菱重工爆弾などの罪に絶傷してしまっただけ、遺族の方々に良心よりお詫言います。確信も自己批判を求め、天皇を攻撃しようとしたり、海外侵略企業等を爆弾した意味を明らかにしたいと思っています。

三菱重工爆弾の誤りが、現在幽霊に人たちの反面教師として生かされることを急いでいます。

(大道寺将司)

※註 この声明文はマスコミに向けて配布されたものであることをおことわりしておきます。

▲吉明文三、二四

春三月 花散る前の宣統布告

三、二四 宣統布告は、死刑無期判決は、日帝の新たな侵略戦争の宣統布告を政府にかけ、最高裁がなしたものであると我々は受けとめる。この宣統布告は、日帝と非難的に戦う全ての人々に対して

する虚言宣言なのだ。しかし、二の宣統布告は花の散る散る知く七びる日本の、弱々しいシグナルにすぎない。日本をセブと押しやる力は、その金銀を白日のもとに晒す二とはない。帝の底にうめく、まづうめく、トスたちを群れなす、吾等主君を埋め尽された祝祭空間、忽然とあらわれる時、その空間に響き渡るのは、日本葬送曲なのだ。

(三、二四 黒川哲正)

「『オサ世界』の人々の犠牲の上に饗食をむさぼる日本の民衆が真に人間らしい生き方を取り戻すには、かつての侵略戦争の加害責任を自覚し、その反省の上にたつて、現在、経緯侵略によって、アジアの民衆を踏みつけている足をどけることからはじめなければならない」ということを、命かけて示そうとしたのが東アジア反日侵襲戦線の彼らでした。彼らを殺すことは、侵略戦争への道を踏み返さることにつながるでしょう。

(荒井まーり)

家族から

彼らなめのために申したのか、理解してほしい。我中世代の親として、彼らの困難は親自身の責任も由つています。再侵襲の徴候について本心に心配しては彼らを重利にする前に客を出してやっつけて下さい。彼らは人を殺すまでやっつけたわけはありません。出来は納得できません。

(荒井幹夫)

もう、これっきりな息子たちと別れてしまうのなと思うとたまらぬ気持ちです。国家権力の多で殺させるのなんとしても残念です。彼らは生きてつぐなうべきです。い、それだけの誠意を彼らはもっています。

七くなられた方々のことを思うと、いまも心な痛む言葉もありません。彼らがああいう行為に立上ったその動機である思想には救えられるものがあります。若者の正義感に私は救えられました。つらいことでしたが、家中の彼らに聞いてやうこと、私はそれを字にできたように思

います。

(大道寺 幸子)

きょうの出来事東でシマの侵略された方々の民族はどのようなに救いたさうな。傍聴人もいない空白の法廷で真に裁かれるべきは誰だったのか。

加害者としての戦争責任を真摯に向い、二ホンの戦中、戦後の軍事的経路を踏まえて、たかれらの命を賭した天啓はわしたたち家族にとっても衝撃でした。

わたしたちは獄中のかれらの思いを受けとめて、今後もたたかいつづけます。

るの、死刑は旧制度の遺物であり、心救済の人权にはあくまで反対です。

文明の恥である死刑制度は、かならず廃止されるべきです。

(荒井 智子)

大道寺と黒川両人の最終弁論はすんでないのです。被告団家族会で強く要請したにも

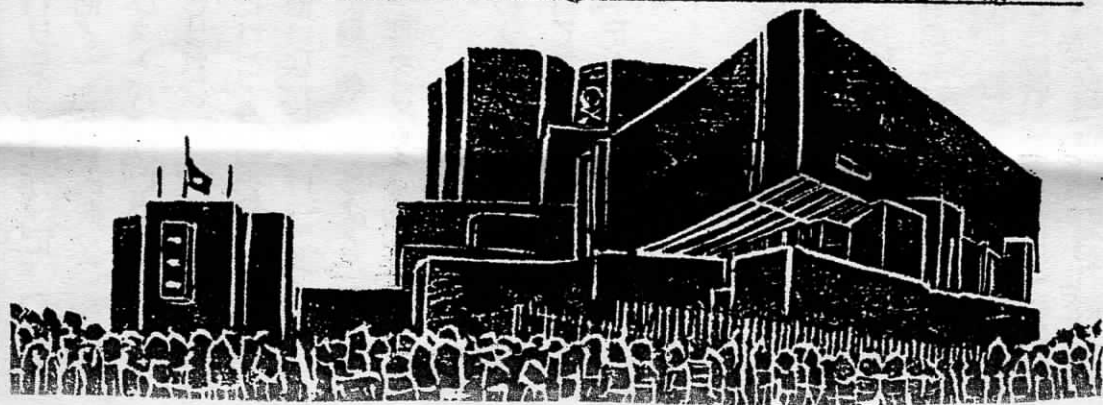
かがわらず、最高裁は充分な審理を及ぼさず、今日の判決を下しました。そのことに強い怒りを感じて抗議します。息子たちの思想と、その行為を私は支持したいと思ってるんです。私もまた息子たちの意志を継いで同じ方向を歩きたいと思っています。

(黒川陽子)

最終弁論も充分にはおこなわれませんでした。裁判所の一方的な判断で裁かれたといわざるをえません。

若い彼等をあの牢に立上させた、思想は正しかったと私は信じています。彼らをあの凶事に立上らせたのは、私たち親の世代がおかした戦争中のまちがいにあったと思います。息子たちは息子たちの誠意でそれをつぐなうとしたのだした。その息子たちを殺す資格は誰にもないのではないのでしょうか。

(益永スミ子)



3.21 反日デモ あつたよ。

3月21日(休)は、大変なことがおこりました。たくさん
の人々の前で、死刑反対・天皇もポリコーも、右翼も反対
のデモ行進をしました。私は死刑反対のユニホームとタン
バリンをきめ、リズムをとりながらあるいた。ただ単にお
もしろがってやったわけじゃない。『人を殺す事はいけな
いこと』それなのに国が人を殺すなんて許せない。爆弾
の事件はだしかにおどか、たんだと思う。でも、もっと根
もこの治りようをしない、何の解決にもならないと思う。
めんどう？ 爆弾を落とすまであの人達はしたのか、うわべ
だけじゃどうしようもないと思う。今のシステムって変じ
やない？ 赤省(注1)の歌で

♪デレデレ、この国豊かだとなやんでる、だけど俺の暮
しは何もかわらない、
広島の名のぶとく平和
をとるえるこの国、ア
ジアに何を つぐなっ
てきた♪

あんましデモには関
係ないかもしれないけ



浜田省吾

ど、おまわりもつるさかった。(太っ
人か一番！) 右翼のおっさんらな
んか、やっちゃみたいで、ひえ、バックには、政治家か
おまわりがついてるなんて信じられない。

最初はデッキンドッキンしたけど、今日のことでは誰
かが、感じてくれればなあと思いつつ、け、こつたのし
みました。死刑反対！ おい天皇、帝位しろよ、国民の
汗水たらしてかせえだお金で、棄するなよ、まるで生きた
化石じゃねえか！

▼私は、今日きつとおまわりさんにおられるかもしれ
ないと思い、スカートをはいてたのをわざわざズボンに
はきかえてきたのは何んだ、たんだ、バカなあたにい。

↑ぶるぶるく

京都からはじめて反日デモに参加しました。2月3日、
最高裁でも感じたんですが、やっぱり大阪ののり、ってスゴ
イ、色とりどりの衣装とか、かけきとか…奈しか、た
街頭でビラはけがあんなに良いのものはじめての体験でした。
…なんて、喜んで居られない。

24日昼は、TVにはりついてたけれど…見たくもない
言葉ばかりが。こーなったら法務大臣に抗議の念カバビバ

を送って、意地でも愛しの将司さん、利明さんを殺させないぞあ……！

＜Ｎ＞

デモは2時半頃はいまって、御堂筋をゆくりと進んだ。警察の人たちはイライラしていたようだが、人目を引く紛装と音楽で、通行人は結構注目していたようだった。やはり権力は、東アジア反日武装戦線の本当の姿というものを人々に知られることを恐れている。

判決は降ろされてしまったけれども、こうして各地で皆が「反対！」の声を上げてゆくことが、彼らを殺させないためには多少とも力になるのではないかと思う。へー

人ひと、ヒト東京集會に参加できなかったわ、その同時行動の思いで反日デモを大阪でスツにやりました。前回は（昨年）の7月（過去最低の）3人なら、今回は14以降初めて22名の会の集りに参加した人々色んな人たちに過去最高の50人もの仲間が結集し、途中、右翼の宣伝カーともい合せになるなど、なかなかのデモでした。右よくはみんな生きていて、生きていくからファシズムなんだ。いつも大声だしてる下さんやさんが東京に詰めただけ、すこしだけ静かになった気がする。へっ

＜87 1月～3月会計報告＞

繰り越し金 117,446円

（収入）

（支出）

購読料・カンパ

本・カレンダー等代金

471,660円

発送 182,090円

購読料本代 188,400円

雑費 45,890円

集會イベント収支 64,467円

計 443,847円

残高 108,259円

会計より

3月に入ってから50人近い方から20万円以上のカンパがよせられました。ほんとうにありがとうございます。おかげで今回の大事な報告号も心配なく発送できました。

振替用紙に書いてあるひと言に

沢山の人が、東ア～の裁判に注目していることを感じました。又、新聞やコピー送って下さった方、切手を送って下さった方、抗議ハガキも沢山の人が送っている様子がわかりました。判決の日を迎えてしまったことは、気が重くなることだったけれど、この輪はもっともっと広がっていきたく思います。やれることは、まだまだあります。

私事ですが、うちの本屋で冊の人に「全国監獄実態」が3冊、たけもとのぶひろ互本が3冊うれました。いまだに冊の人の人に訪ね余裕や気持ちうすかったんだなと思います。時間がないとあせるばかりで……。とにかく、多額のカンパに感謝の気持ちと、元気がでた報告です。(由)

反日 スゲイ

判決日までの 一週間

in
Osaka



連日ビラまき
&
御堂筋デモ

梅田の阪急から地下鉄谷町線への乗換通路
ラッシュアワーの一時間のビラまき
誰もが足速に通り過ぎ去ろうとする中で
突如差し出されるビラは やはりじつまなも
のだろう 受け取ってくれる人は少ない。
これまでならここをいや気がして、
何事にも関心を持たない一般市民大衆よ、と
のろうところだが
この日 私の目に浮かんだのは
どこでどう結び目が合わさったのか
最近しばらく関心を寄せてくれるようになった
彼女であったり、彼であったり…

もしかしたら、今、ビラを手渡した無愛想な
おじさんが、このビラの一文に心を揺り動か
されるのかもしれない

もしかしたら、この暑飾ったスマシ顔の彼女
が、ビラを片手に考え込んでいるのかもしれ
ない。

この100枚のビラのうちの1枚が もしか
したら… と思うと、ビラ1枚1枚が大切に
思え、見知らぬ1人1人が大切に思えてく
るのだ。

そう思うと べなしに 私の手からビラは受
けとられていく。

私は一日中をもうこうしてビラを配っていたい
暑熱になるのだ。

私は心の中で叫んでいた — 東アジア反日
戦線線の彼らのことを知ってください！ —

鳴り物を鳴らしながら、ビエロもいて、チン
ドンガラント、死刑廃止の声を街中に… と思
うが、いかんせんコジの会のにぎやか所が
すでに支援のために東京にむかっている。
何人集まるだろうと、多少の危機もあって、
電話作戦に出ようかと顔を思い浮かべるが、
その顔は、電話などかけずとも「来る」こと
がわかる。そして、顔を思い浮かべることの
できい沢山の人の思いを感じる。
当日はやはり50人もの人が集まる。1人1人
の必死さが、その歩き方の中から伝てくる。
死刑判決が下されようという24日を目前に、
「私は死刑廃止を訴えて御堂筋を歩く！」と
いう確かな思いが、『死刑反対』とカラフル
に書き込まれた7色虹色のポンチョをなびか
せる春分の風のように吹き抜けていく、いい
ぞもだった。

24日最高裁判決日当日はどしゃ降り、最高
裁前に傍聴・支援にかけつけた私たちを、ほ
ぼ同数の機動隊員がとりまく。一列横隊、ビ
ックリ並んだ大柄な機動隊員のふ厚い壁の向
こうからは、私たちはまるで見えない。
町行く人には、ただ、雨の最高裁前に機動隊
がならんでいるだけ。

「殺すな！」という叫びをふっじ込めようと、

私はビラをまき続けるだろう

沢山の人の思いを背に

「彼らを殺すな！」という叫びを胸に。

(歩)

虹をけすな!

東アジア反日武裝戦線への死刑・重刑阻止 5・4集会

5月4日(休) 1じ～5じ

at 代々木区民センター ￥?

- ・お話し 森 正孝 (映画「侵略」原作者)
- ・映画 「侵略」パートⅡ ・各アポール
- ・音楽 未定 ・ハノンレキスカッションあり

by 刈蔵実



5月8日(金) 死刑廃止連続つどい

太融寺 6:30~9:00

話し手 戸次 公正 さん

きき手 木下 達雄 さん

その②

by かたつおりの会

￥300 えん

お坊さまの カップリングです。来ちゃよ。

4月22日(木)

at 太融寺

6時はんスタート

- ★ ニジの会丁さんのタイランド滞在報告(反日の現状など)
- ★ せひきて下さい。待ってます♡
- ★ 3・24でも不当逮捕された京都のA君の話し(予定)

￥300

ぼくの会 死刑会

ぼくがぼく

▼ 2・23口頭弁論が雪かと思たに今度は開か。24日朝は最高裁へ行く前に「いっちゃん、おちかまじたい」と立ちよったのがこの町・日本テレビ。「ズームイン」朝で死刑反対派の「さ」が反日の横断幕を全国に映してあげて最高裁へ。

▼ 3・24も最高裁「前」に赤山の人たちが集まった。そんな中でぼくが考えたことはーそう、その人たちという何故か無しのだった。どか力が痛くてまで、ウキウキしたし、知った顔、見知らぬ人と出会うたび、その「人との出会い」の次に、おちかまじたいの、関係、のてんびんは、かたむいてくるのだな。と。東アジアへの事件にはじめて、反日という問題は、あつちの面でも出会いを困難にしていると言えよう。そんな山あり谷あり、又山山々の路程だからこそ、そこで出会う人たちに確かなつながりを感じずにはいられないで思ふ。死刑・重刑判決は降ろされてしまった、でもぼくは最高裁に行きよめたと思つて、いい旅や、たてまつる。元氣が出た。これから先の反日運動を想像するにつけ、最高裁に来た人たちが、思いをよせてた幾人かの未知人たちが、この状況とくがえすことがないでいようと思ふがしたからだ。

▼ 今回は全部の発表を2つに①ニュースの記事を引用したり、新聞やラジオからのコピーがあったり、ライアウト的にも難いものになってしまった。このかんの連続したニュースづくりで、だにが授けたせいもあるんやと思ふ。次回、誰か編集して〜!! (ホッピー)